

# 平成31年度(令和元年度)「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

|      |           |
|------|-----------|
| 区名   | 住吉区       |
| 学校名  | 大阪市立墨江小学校 |
| 学校長名 | 東 邦 裕     |

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成31年4月18日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

## 1 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準向上の観点から、児童の学力や学習状況を継続的に把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 2 調査内容

### (1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数

### (2) 質問紙調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

## 3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・墨江小学校では、第6学年 113名

## 平成31年度(令和元年度)「全国学力・学習状況調査」結果の概要

○教科に関する調査では、国語の平均正答率は大阪市より1%上回ったものの、全国よりも4.8%下回ってしまった。算数では、大阪市より2%、全国よりも0.4%上回った。無答率においては、国語は0.8~0.7%下回ったが、算数では1.4~1.5%大きく上回った。「わかったことをまとめて書くこと」「漢字（同音異義語）」「計算の仕方の説明を書くこと」「資料を読み取り回答した理由を書くこと」といった記述式の回答で平均正答率が50%を下回っており、無答率も高くなってしまっている。

○質問紙調査では、昨年度からさらに自尊感情や規範意識の高まりが見られるとともに、公共性やいじめを許さない気持ちの高さも維持できている。昨年度全国平均を下回った「朝食の摂取」「家族との会話」については、肯定的な回答の割合が大阪市・全国平均とともに上回り、基本的な生活習慣が身に付いていることが分かる。抜粋した10項目のうち唯一大阪市・全国平均とともに肯定的な割合が下回ったのが「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」の項目である。家庭での学習習慣の定着を図るためにどのような工夫が必要なのかを考えるとともに、児童一人ひとりの個を尊重する教育を継続する。

## 分析から見えてきた成果・課題

### 教科に関する調査より

〔国語〕・・・文章に親しみ表現する力を育成する取り組みをしてきた成果として、「図表やグラフなどを用いた目的を捉える」「情報を相手に分かりやすく伝えるための記述の仕方の工夫を捉える」（ともに選択問題）については平均正答率60%を上回った。ただし記述式の問題「目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く」では、平均正答率が約30%と落ち込んでいる。また、漢字（同音異義語）や接続詞についても課題が見られた。「タイショウ」「カンシン」の区別が難しいようで、特に「カンシン」については平均正答率が約16%であり全国平均よりも大幅に下回っている（「タイショウ」の平均正答率は約44%）。接続詞の活用方法についても42%と50%に届いていない。これらのことから、2つの課題が浮き彫りになった。一つ目は「課題に対して自分の考えを整理して書くことができるようになる」こと。二つ目は新出漢字だけではなく、「熟語の意味や活用方法と言葉の指導法を工夫する」こと。少人数指導や習熟度別指導を計画的に行ったり、言葉のはたらきに注目させる指導をしたりする必要がある。

〔算数〕・・・グラフの読み取り、図形の知識に関する基礎は身に付いている。また、目的応じた調べる方法を見つけたり、計算の仕方とそれにふさわしい数値の組み合わせを書いたりすることもできている。「求積方法を記述する」「グラフからわかることを選び、選んだ理由を記述する」「ひき算をもとに、わり算について成立する性質を記述する」という問い合わせに対して、平均正答率が50%を下回っている。課題は国語と同様に「自分の考えを整理して書くことができるようになる」ことだと考えられる。自分の言葉で説明したり、書いたりするために、「苦手な児童には図や短文から」「得意な児童には整理して端的に表現する」といった工夫が必要であり、「振り返りプリント」の計画的な活用方法も検討する必要がある。

### 質問紙調査より

○「学校のきまりを守っていますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」「いじめはどんな理由があってもいいことだと思いますか」といった規範意識に関する調査では、いずれも昨年度よりも上回り、大阪市・全国平均とも上回ったことから、昨年度からの高まりが伺える。自尊感情を問う「自分には、よいところがありますか」では、昨年度よりもわずかに上回り、大阪市・全国平均とも上回った。昨年度から自尊感情の高まりが少しづつ見られるようになり、今年度も高まりが続いていることが伺える。いずれも、一人ひとりの児童の個を尊重した教育の成果だと考えられる。「話に耳を傾け、心で思いを受け止め、一緒に解決していく」「できたら褒める、努力を認める」ことを全教職員で継続して取り組み、墨江スタンダードにしていくことが課題に挙げられる。

○「学級の友だちとの間で話し合う活動」「道徳の授業での話し合う活動」についての問い合わせに対しては、昨年度とほぼ同じで学習への意欲は見られたが、肯定的な回答の割合を伸ばすためには、話し合い活動の工夫と計画的な実施が必要だと考えられる。

○大きく大阪市・全国平均とともに下回ってしまったのが「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」の問い合わせである。家庭学習の定着は肯定的な回答の割合が昨年度よりやや高まったが全国平均には及ばない。家庭学習の方法を工夫するという課題が明確になった。

## 今後の取組(アクションプラン)

○「自分の考えを整理して書くことができる力」の育成・・・これまでの「書く力」を育むための指導の成果が少しづつ出来始めているので、自分の考えや予想、振り返り等をノートにまとめる活動を少人数指導や習熟度別指導を通してきめ細やかに指導を続けていく。自分の言葉で説明したり、書いたりするために、「苦手な児童には図や短文から」「得意な児童には整理して端的に表現する」といった工夫や「振り返りプリント」の活用などを行い「書く力」を育成していく。また、熟語の意味や活用方法と言葉の指導にも努める。新出漢字や各単元での学習だけではなく、読書の習慣化を図り多くの言葉に触れさせたり、進んで辞典で調べる環境を整えたりして、言葉への興味・関心を高める手立てを講じていく。

○「個を尊重する教育」と「家庭学習の習慣化」・・・・自尊感情を高め将来に希望や夢を持ちながら何事にも挑戦しようとする態度を育むために、学校だけではなく家庭と地域の連携を引き続き行い、三位一体で児童を育てていく。学校ではあらゆる活動を通して、「話に耳を傾け、心で思いを受け止め、一緒に解決していく」「できたら褒める、努力を認める」を継続して行う。この原則をもとに、発達段階に応じた指導・支援を行い、日常の連絡や懇談会等で家庭との連携を図り協力を要請する。また、家庭での計画的な学習（宿題・予習・復習）の仕方について校内で話し合うとともに、学校だより等を通して家庭への啓発を行う。これらの取り組みについてはPTA実行委員会や学校協議会でも積極的に話題に取り上げ、各家庭だけではなく地域全体の取り組みとして捉える意識を高めていく。

これらのことを全教職員の共通理解のもと「チーム墨江」として取り組んでいく。